

2023(令和5)年度 大阪教区重点プロジェクトの推進状況

<実践目標>

- 実践目標(1)：貧困の克服に向けて〈～Dāna for World Peace～〉一子どもたちを育むために一
実践目標(2)：魅力ある寺院をめざして

<達成目標>

- 実践目標(1)：持続可能な貧困支援活動の実践
実践目標(2)：持続可能な寺院活動の基盤づくりの実践

<2023年度推進計画>

- 実践目標(1)：持続可能な支援システムの構築
実践目標(2)：1. 「人生儀礼」の一般寺院での実施
2. 寺院活動の基盤づくりに関する研修会の開催

(1) 実践目標達成に向けた取り組み（研修会、実践活動等）について

①取り組み内容

実践目標(1)：

- i) 「お米をひと握り（一合）持ち寄り」ほっとけ^{まい}米プロジェクト
※奨励要項 <<64ページ参照>>
※実施組 6組
- ii) バースデーケーキプレゼント・プロジェクト
支 援 先：児童養護施設 大阪西本願寺常照園
支 援 者：個人・グループ・寺院・教化団体・組など49口
支援金額：1口 3,000円（誕生日ケーキ1ホール分）

実践目標(2)：

1. i) 「人生儀礼（歳祝い）」を一般寺院で実施
※実施内容 <<27ページ参照>>
ii) 「生前葬」モデル事業の実施（動画収録）
※実施内容 <<27ページ参照>>
2. 寺院活動の基盤づくりに関する研修会（3回）の開催

YouTube「西本願寺大阪教区」



i)

人生儀礼モデル事業「歳祝い」(長寿祝い)
URL:https://www.youtube.com/watch?v=o_pdi34Ylqo&t=114s



ii)

人生儀礼「生前葬」

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=ffORPEI40WU>

②達成度

B.ほぼ順調

③達成度の理由

バースデーケーキプレゼント・プロジェクトと「お米をひと握り（一合）持ち寄り」

ほっとけ米^{まい}プロジェクトは多くの支援を受けているが、コロナ禍の影響で特に寺院活動に大きな影響があり、プロジェクトへの参加が不十分である。この状況は他の組織でも同様であり、今後の対策が必要である。

また、「人生儀礼（歳祝い）」では、協力していただける寺院でも初めての試みになるため、常例法座に合わせての実施や、モデル事業は計画通り、順調に実施することができた。ただ、寺院活動基盤づくり研修会では、当初のイメージした内容とは少し乖離する部分があるが、違う視点で事業目的に向けた取り組みができた。

(2) 取り組みによる成果について

①成果

実践目標(1)：

i) 「お米をひと握り（一合）持ち寄り」ほっとけ米^{まい}プロジェクト

多くの方や、特に子どもたちに喜んでいただいている。

ii) バースデーケーキプレゼント・プロジェクト

この支援は、不安要素なく継続でき、次の支援先への余力を持っている。支援先の施設からの報告では、多くの子どもたちが喜んでいとのことで、目標達成成果は十分と思う。

実践目標(2)：

1. i) 「人生儀礼（歳祝い）」を一般寺院で実施

初めての試みで、実施した寺院からは好評な感触を得たようで、継続したいとの報告があり、よかった。

ii) 「生前葬」モデル事業の実施（動画収録）

寺院としては、比較的馴染みの少ない人生儀礼で、不慣れなことで試行錯誤したが、結果的には、ポイントをしっかりと踏まえて実施することができた。

2. 寺院活動の基盤づくりに関する研修会の開催

テーマ設定が幅広くできる中、それぞれ違う視点で行事目的に向けた取り組みができた。

②達成度

B.ほぼ順調

③達成度の理由

ほっとけ米^{まい}プロジェクトは、コロナ禍にあって食品を扱うことでやや様子を見てか、期待するほどの成果報告はなかった。またお米が混ざること懸念する意見もあった。

バースデーケーキについては、不足なく支援金が支援先に届けられたので、取り組みの達成度としては順調といえる。

「魅力ある寺院をめざして」は、ほぼ予定通りに取り組めた。

(3) 取り組みにおける課題・改善策について

実践目標(1)：

i) 「お米をひと握り（一合）持ち寄り」ほっとけ米^{まい}プロジェクト

ある施設へ支援し、その余力を次の支援先へまわすことができるよう、組で企画ができるように情報を発信する必要がある。また一方で、支援先については、地域や寺院によって環境の違いがあり、管理按分する必要性も思案する。支援先の拡大の検討も必要であり、「お米」に特化することも再考する必要がある。

ii) バースデーケーキプレゼント・プロジェクト

新たな支援先については、それぞれのハードルが高く、場合によっては行政との協力が必要だと感じる。

実践目標(2)：

1. i) 「人生儀礼（歳祝い）」を一般寺院で実施

ii) 「生前葬」モデル事業の実施（動画収録）

具体的に実施していただくことや動画の閲覧など、広く周知を図っていく必要がある。

2. 寺院活動の基盤づくりに関する研修会の開催

参加者が少ない。テーマ内容、開催時間、それに告知方法など見直す余地がある。各行事のあとに、参加者へのアンケートをとり、フィードバックを行う必要がある。

(4) 教区・特区僧侶、門信徒の参画、実践について

①参画、実践状況

実践目標(1)：

直接ではなくとも、間接的には門信徒の協力（参画）を得てできている。僧侶、門信徒が協働で取り組んでいる。

実践目標(2)：

実践活動や研修内容にもよるが、まだまだ広く参加、参画を得ていない。今後のさらなる周知を図ることで向上をめざしたい。

②達成度

C-1.何とも言えない（様子見）

③達成度の理由

門信徒の協力を得ながら活動している組は限られており、教区報などを通じて、より発信する必要がある。また、関わりが少なく、周囲からの反応が得られていない感がある。

以上